

普及・教育・研究活動報告（2015 年度）

1. 2015（平成 27）年度の普及活動

1) 展示・情報公開

a. 埋蔵文化財調査部門サテライト館展示室の公開

埋蔵文化財調査部門では、総合博物館サテライト館のひとつとして展示室を整備し、構内遺跡で出土した資料を中心に展示公開を行っている（開館日：月曜日～金曜日 祝日および 12 月 29 日～1 月 4 日を除く 開館時間：10 時～17 時）。2015 年度の来館者は 466 名（前年比 0.69）であった（2007 年 5 月のリニューアルオープンからの延べ来館者 5,009 名）。1 年を通してみると、5 月は教養ゼミの広大生 28 名（昨年度 82 名）、7 月は東広島市との共催で実施している「親と子の体験歴史村」74 名、11 月は大学祭で実施した勾玉づくりのワークショップ 89 名、団体見学として郷田小学校 56 名の多数の来館があったが、前年度と比較して（2007 オープン年度 1,364 名を除く 2008～2014 年度の平均 418 名）大幅に減少した。教養ゼミ学生数の減少、学芸員課程の展示室利用なし、団体見学数（前年度 5 件）などの団体利用が減少した影響だと思われる。

ただし、今年度は後述する広島市内での巡回展（全会期計 11,847 名）などの出先機関での展示活動を積極的に進めたため、年間を通してみると前年度以上に多くの人たちに所蔵資料の情報公開をすることができたと考えられる。



写真 79 展示室の様子



写真 80 展示室見学の様子

b. 第5回ふむふむギャラリー「江戸時代の海の幸・山の幸ー発掘された骨と貝ー」
開催（2015年7月21日～11月7日）

遺跡から出土するのは、土器や石器、金属器などの無機質なものだけではなく、貝塚や低湿地の遺跡では、骨や貝殻あるいは木製品などの有機質のものも発見されることがある。骨や貝殻などは動物遺存体と呼ばれ、当時の人たちが何を食べ、どのように利用したのかなど、その時代の自然環境や食文化などについて知ることができる重要な文化財でもある。

本企画では、私たち人間が昔から多様な資源を利用してきたことを理解してもらうために、遺跡から出土する動物遺存体の展示を行った。広島大学のある東広島市では、西条駅前周辺には、西国街道を中心に栄えた四日市遺跡（近世～近代）と呼ばれる宿場町（市宿）の跡が発見されており、そこで利用された多くの動物遺存体が確認されている。また、広島市内では近世の広島城跡（法務総合庁舎地点）から多様な資料が出土している。いつの時代も多くの動物資源が利用されていたはずであるが、動物遺存体は土器や石器に比べて残りにくく、当時の食環境がどのようなものだったのか実感することが難しいが、四日市遺跡や広島城跡には幸い多くの資料が残されていた。これらの遺跡から出土した貴重な動物遺存体を通して、当時の食環境や文化を理解してもらうことを目的とした展示である。

四日市遺跡は内陸部に位置するにもかかわらず、アカニシやハマグリなどの海産貝類やマダイやヒラメなどの海産魚類が多く出土しており、広島城跡からも前述した種に加えてヤマトシジミやアサリ、サザエなどの多様な貝類、スズキやコチ、クロダイなどの複数種が確認されている。ニホンジカやウシ、イヌ、ネコなども利用されたことが明らかになっており、それらの資料を遺跡の説明とともに展示した。会期中の来館者は279名であった。



写真 81 展示の様子



写真 82 展示のチラシ



写真 85 舟入公民館展示解説の様子



写真 86 舟入公民館展示の様子



写真 87 広島市郷土資料館展示の様子



写真 88 二葉公民館展示の様子



写真 89 段原公民館展示の様子



写真 90 大河公民館展示の様子



写真 91 仁保公民館展示の様子



写真 92 青崎公民館展示の様子

d. 刊行物

『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第7号（2016年3月刊行）

本紀要は、埋蔵文化財調査部門の研究および調査の成果と普及活動の年度報告を発信するものである。研究編に研究論文1稿、調査編には「開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2012年度）」と「開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2013年度）」、付編には「普及・教育・研究活動（2012年度）」と「普及・教育・研究活動（2013年度）」、「総合博物館埋蔵文化財調査部門の組織」が収められている。



写真 93 紀要表紙

広島大学埋蔵文化財 調査研究紀要第7号	
目次	
第1部 研究編	
近世広島町内日山遺跡の11期利用	石丸忠和子…………… 1
第2部 調査編	
1. 開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2012年度）……………	21
2. 開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2013年度）……………	57
付 編	
1. 普及・教育・研究活動（2012年度）……………	119
2. 普及・教育・研究活動（2013年度）……………	141
3. 総合博物館埋蔵文化財調査部門の組織……………	155

写真 94 紀要目次

『HUM-HUM』 Vol. 8 への寄稿（2015年5月発行）

広島大学総合博物館のニューズレターに、埋蔵文化財調査部門の2014年度の活動の一部を紹介した。「霞キャンパスで発見された「広大病院」食器の展示を行いました。」には、東広島キャンパス（埋蔵文化財調査部門展示室）と霞キャンパス（医学資料館）で実施した展示の様子を、また「勾玉づくり in 大学祭」には、大学祭で実施した勾玉づくりワークショップについて報告した。「2014年度の埋蔵文化財調査部門の立会・試掘調査」には、東千田キャンパスで初めて実施した試掘調査の成果を、「博物館のお仕事」には、発掘調査の時に実際に使用している道具やその使い方について紹介した。



写真 95 HUM-HUM 表紙



写真 96 発掘調査の成果報告



写真 97 お仕事紹介



写真 98 イベント紹介

『広島大学所蔵標本・資料』1の刊行と考古資料の情報公開（2015年11月発行）

総合博物館開館10周年を迎え、博物館の目的のひとつである「所蔵学術標本資料の調査・収集、保存・管理」の成果の第一弾として、『広島大学所蔵標本・資料』を刊行した。その中に、埋蔵文化財調査部門が保管・管理している広島大学構内遺跡の調査関連資料、学術調査資料、寄贈資料について情報を公開した。以下の遺跡資料が紹介されている。

02. 鏡西谷遺跡出土考古資料、03. 鏡東谷遺跡出土考古資料、04. 鏡千人塚遺跡（広島県教育委員会調査）出土考古資料、05. 鏡千人塚遺跡出土考古資料、06. 鏡遺跡群（広島県教育委員会）出土考古資料、07. 清水奥山遺跡（広島県教育委員会）出土考古資料、08. 東ガガラ窯跡（広島県教育委員会調査）出土考古資料、09. 東ガガラ遺跡出土考古資料、10. 西ガガラ遺跡第1地点出土考古資料、11. 西ガガラ遺跡第2地点出土考古資料、12. 西ガガラ遺跡第3地点・第4地点出土考古資料、13. 山中池南遺跡第1地点出土考古資料、14. 山中池南遺跡第2地点出土考古資料、15. 山中池南遺跡第3地点・第4地点・第5地点出土考古資料、16. 山中池南遺跡第6地点出土考古資料、17. 陣が平西遺跡出土考古資料、18. 平木池遺跡（広島県教育委員会調査）出土考古資料、19. 鴻の巣北遺跡出土考古資料、20. 鴻の巣遺跡出土考古資料、21. 鴻の巣南遺跡出土考古資料、22. ぶどう池南遺跡第1地点出土考古資料、23. ぶどう池南遺跡第2地点出土考古資料、24. 新池遺跡出土考古資料、25. 霞地区出土考古資料、



写真 99 広島大学所蔵標本・資料1の表紙



写真 100 遺跡資料紹介部分1



写真 101 遺跡資料紹介部分 2



写真 102 遺跡資料紹介部分 3

26. 翠地区出土考古資料、27. 東千田地区出土考古資料、28. 三原地区出土考古資料、29. 水分神社遺跡出土考古資料、30. 石器石材原産地原石標本資料、31. 東永谷製鉄遺跡ほか考古資料、32. 冠遺跡D地点ほか考古資料、33. 神宮原遺跡出土考古資料、34. 細野遺跡出土考古資料、35. 多久三年山遺跡出土考古資料、36. 東広島市豊栄町出土考古資料、37. 東広島市出土地不明考古資料、38. 石器石材原産地原石標本資料（寄贈分）、39. 地御前南町遺跡出土考古資料、40. 丸子山遺跡出土考古資料、41. 上殿遺跡出土考古資料、42. 京之本遺跡ほか出土考古資料

その他の考古資料として、大学院文学研究科地表圏システム学講座考古学分野（考古学研究室）所蔵考古資料についての紹介も含まれている。

e. Facebook・ホームページ更新

埋蔵文化財調査部門では業務報告やイベント紹介などの情報を敏速に発信するため、2014年7月よりFacebookの運用を開始した。イベント紹介や埋文での業務の様子などを更新している。ホームページにもキャンパスの遺跡や遺物の情報を公開している。

2) 調査資料および遺跡の整備・管理

a. 東広島地区：鏡西谷遺跡整備のための測量調査

実施面積：約 2,200 m²

実施期間：2016 年 2 月 16・17・19 ～ 21・23 ～ 27・29 日、3 月 1 ～ 12 日・14 ～ 18 日（延べ 28 日：現場作業・データ整理日を含む）＊うち立会日延べ 7 日

担当者：石丸恵利子

委託業者：中博建設

実施内容：鏡西谷遺跡における保存活用整備を目的とした地形測量調査の報告である。鏡西谷遺跡は、調査の後に埋め戻しや盛土をおこない、保存区として残されている。一部で土壌の流出を防ぐためにネットをかけ、また、遊歩道の設置、検出された弥生時代と中世の遺構の一部においてその近くに説明の看板を設置するなどして整備をおこなっている。その他には、年数回の草刈を実施しているのみである。鏡地区にある遺跡（鏡西谷遺跡・鏡東谷遺跡・鏡千人塚遺跡）は、広島大学構内遺跡の中でも鏡山城跡との密接な関わりが指摘され、西条盆地における弥生と中世遺跡としてもっとも貴重な遺跡の一つに位置づけられるにもかかわらず、その後の整備活用は不十分であったといえる。そのため、今後は鏡西谷遺跡の整備活用事業を最優先で行うことを計画した。

鏡西谷遺跡の保存区においては、今後複数年かけて遺跡の保存と活用に伴う整備事業を進めていく計画である。今年度は、中世に係る遺構を整備して活用していくことにした。

現段階での計画の概要は、①保存区の地形の現状把握、②遺跡保護のための盛土・土止め、③中世遺構のレプリカ復元、④説明板設置である。今年度は①の地形の現状把握のための測量を実施した。2 月 8 日から 15 日の間に草刈りおよび草の搬出（これまで刈り取った草は保存区内の隅に集めて置いていたが、地形測量をするにあたり、その一部を搬出して処分した）を実施した。測量調査は 2 月 16 日から 3 月 18 日の間で実施した。

調査の結果、遺構検出面の標高と現在の標高がほぼ同一の値を示しており、地形は大きく改変されてはいないものの、盛土（調査終了時の盛土もわずかであったとのこと）はほとんど流出してしまった状態であることが明らかとなった。今後の整備として、遺構保護のための盛土と土止めが急務だと考えられる。

なお、構内遺跡の整備活用については、これまでの本学の実施状況や日本各所の整

備実績を参考にしながら長期計画を立て、それに基づいた遺跡の保護整備活用を実施していく予定である。



写真 103 測量調査の様子 1



写真 104 測量調査の様子 2

ｂ．東広島地区：東千田地区のレンガ組み塼の移設展示整備

実施面積：約 4.0 m²

実施期間：2016 年 3 月 23・24・25 日（延べ 3 日）

担当者：石丸恵利子

委託業者：中博建設

実施内容：東千田地区 HS1534 調査地点で検出されたレンガ塼 2 基を、東広島キャンパスに移設する工事の立会調査である。HS1534 調査地点では 4 基のレンガ塼が検出されているが、そのうち整備工事によって壊される場所にあった 2 基（レンガ塼①②：それぞれ HS1534 調査の 14 区・6 区で検出したもの）を、東広島キャンパスに移築して保存および展示することとした。残りの 2 基（レンガ塼③④：それぞれ 6 区・3 区で検出したもの）については、現状のまま現地で埋め戻して保存されている。

レンガ塼①は東西 70 cm×南北 70 cm×高さ 60 cm（11 段）で、それぞれの面と段が分かるよう番号をつけ、ストレッチフィルムで周囲を巻いて固定して取り上げた。レンガ塼②は東西 46cm×南北 70cm×高さ 30cm（残 4 段）で、同様にストレッチフィルムで巻いて取り上げた。いずれもそのままの状態でも東広島キャンパスに移動して、埋蔵文化財調査部門前の花壇内に設置した。

レンガ塼②については、崩れることなく移動できたため、一番下の段の周辺に盛土をすることによって固定した。レンガ間のモルタルは当時のままであるため、崩れる可能性を考慮して塼中に詰まった土壌はそのままの状態とした。

レンガ柵①については、取り上げ（吊り上げ）の際に崩れたため、レンガに付けた番号をもとに、一度解体して積み直した。レンガが割れたりして再構築に利用できない部分については、新しい現代の柵を使用した。レンガ間は、現在のモルタルで接着させた。柵内部の土壌はすべて取り除き、柵内部が観察できるよう復元した。取り除いた土壌には、ガラスや瓦の破片が多く詰まっており、採集して保管した。柵の底には中央が緩やかにくぼんだコンクリート板状のものが据えられていたので、そのまま再利用し、内側は底まで見ることができるようにした。外側は上から6段分が見えるよう、周囲には砂を多く含んだ緩いモルタルで固定した。現在製造されているレンガ1個のサイズは、長辺 21.0cm × 短辺 9.5cm × 厚 6.0 cm であるが、当時のレンガ柵には長辺 23.0cm × 11.0cm × 6.0 cm の一回り大きなものが使用されている。

今回、まず広く一般に成果を公開することを優先して東広島キャンパスに移設したが、広島高等師範学校に関連する明治期の貴重な構造物であるため、大学と展示場所等について協議しながら、東千田地区に戻して展示公開する予定である。



写真 105 レンガ組み柵設置の様子 1



写真 106 レンガ組み柵設置の様子 2



写真 107 レンガ組み柵設置の様子 3



写真 108 レンガ組み柵完成状況

c. 東広島地区：遺跡保存区の草刈り整備

毎年、東広島地区の保存区では草刈りおよび集積をして管理している。東広島市シルバー人材センターに依頼して、鏡西谷遺跡、西ガガラ遺跡第1地点、山中池南遺跡第2地点の草刈りを以下の日程で実施した。

山中池南遺跡第2地点 2015年8月17・18日（各日6名）

鏡西谷遺跡 2016年1月7・8・12～16日（各日6名）

西ガガラ遺跡第1地点 2016年2月26・27日（各日6名）

d. 東広島地区：おもてなし IC (NFC) タグの設置

東広島キャンパス内の保存遺跡の一部には、検出された遺構を復元整備したりそれぞれの遺跡の説明を行うために案内板を設置している。近年、情報化社会の発展により、どこにいてもスマートフォンやタブレットを利用して多くの情報を得ることができるシステムが普及している。案内板は限られた情報にとどまるため、これらのしくみを利用して遺跡保存区においてより多くの遺跡情報の提供に活用するため、試験的に NFC (Near Field Communication: 近距離無線通信) タグの設置を進めることとした。

対象とした遺跡は、鴻の巣南遺跡、山中池南遺跡第2地点で、前者に2か所、後者に4か所の計6か所に設置した。



写真 109 NFC タグ

3) 遺跡・遺物の整理・利活用

a. 遺物の整理

これまでの発掘・試掘・立会調査において、多くの遺物が出土しているが、未整理のものや未報告の資料がまだ多く存在する。実測図やトレース図などの調査図面や写真などにも、記録情報が欠如しているものや未整理のものがあり、それらの整理を継続して実施している。

本年度は、鏡西谷遺跡と鏡千人塚遺跡出土の中世鍋釜類の実測を中心に整理作業を行った。また、ががら地区調査報告書関連の図面（実測・トレース原図）整理を行った。今年度の立会・試掘等で出土した遺物の洗浄およびナンバリングも適宜行った。

b. 資料の貸し出し・利用

出土遺物の活用のため、資料見学や貸し出し依頼を積極的に受け入れている。今年度は以下の利用があった。

鴻の巣遺跡、西ガガラ遺跡第1地点・第2地点、山中池南遺跡第2地点出土旧石器時代遺物の見学

利用者：須藤隆司（長野県）

利用日：2015年11月16日

展示パネル鏡山地区マップのデータ提供

利用者：吉田泰義（広島県）

利用日：2016年2月4日

山中池南遺跡第2地点出土鉄器および鍛冶関連遺物の見学

利用者：村田智子（広島県）

利用日：2016年3月23日

c. 資料の寄贈受け入れ

故今田三哲氏所蔵考古資料

寄贈資料：廿日市市地御前南町遺跡、北広島町上殿遺跡などから出土した縄文土器、弥生土器、中世土師質土器、陶磁器、縄文時代の石器など約9,000点

寄贈者：今田陽二

受入日：2016年1月15日

4) 社会貢献・普及活動

a. 親と子の体験歴史村（実施日：2015年7月25日）＊東広島市との共催事業

東広島市との共催事業として、「第32回親と子の体験歴史村」を開催した。本事業は東広島市が主催として実施してきたもので、2008年度から共催となり、8回目にあたる。夏休み期間中に東広島市内の小学生（4・5・6年生）とその親を対象として、むかしのものづくりや生活を体験してもらうもので、埋蔵文化財調査部門展示室南の芝生スペースを主たる会場として開催している。本年度は、74名（東広島市と広島大学スタッフを除く）の参加があった。

午前中は、鴻の巣南遺跡の復元住居の見学、埋蔵文化財調査部門展示室および整理

室見学、土器づくりを行った（写真 111 ～ 113）。午後は、火おこし、総合博物館本館見学、勾玉づくりを行った（写真 116 ～ 118）。昼休憩中には、土器の接合体験や鏡（レプリカ）パズルができるコーナーを設置して対応した（写真 114・115）。また、展示室の資料にかかわるクイズを作成し、回答者には埋文スタッフが作成した埴輪のマグネットを記念品とした。土器は東広島市が依頼する窯で焼き上げ、約 1 か月後に各参加者に返却している。



写真 110 しおりの表紙



写真 111 鴻の巣南遺跡見学の様子



写真 112 埋文展示室見学の様子



写真 113 土器づくりの様子



写真 114 お昼休憩弓矢体験の様子



写真 115 土器（レプリカ）接合体験の様子



写真 116 博物館本館見学の様子



写真 117 火おこし体験の様子 1



写真 118 火おこし体験の様子 2

b. 大学祭における「勾玉づくりに挑戦」ワークショップ （実施日：2015 年 11 月 7 日）

埋文ワークショップ第 2 回目として、大学祭の初日に勾玉づくりのイベントを開催した。展示室ではふむふむギャラリー「江戸時代の海の幸・山の幸～発掘された骨と貝～」も会期中であり展示室も同時に開館した。埋文スタッフに加えて考古学研究室の学生 5 名の協力のもと対応し、勾玉づくりに 89 名の参加者と展示室に 77 名の見学者があった。昨年に続いて大変好評であったといえる。



写真 119 大学祭のガイドブック



写真 120 勾玉づくりの様子 1



写真 121 勾玉づくりの様子 2

c. 学内遺跡見学ツアー（実施日：2015 年 11 月 26 日）

大学の遺跡や地域の歴史についてより理解を深めてもらうため、学内学生・教職員を対象とした「学内遺跡見学ツアー」を開催した。総合博物館から北 2 コープショップの南側にある鴻の巣遺跡、堅穴住居跡を復元した鴻の巣南遺跡、埋蔵文化財調査部門展示室までを約 1 時間かけて巡るコースで実施した。今回の試みでは参加者は 8 名であったが、参加者からは「遺跡があるのを知らなかった」、「このような機会をもつ

学内遺跡見学ツアー
11月26日(木)
13:00 ~ (30 ~ 40分程度)
※参加費無料。参加者にはオリジナルクリアファイルを差し上げます。
雨天決行。当日の日程については、後日発行のFacebookで案内します。

《見学コース》
【集合】総合博物館前 → 鴻の巣遺跡 → 埋蔵文化財調査部門（展示室）【解散】
問合せ先：総合博物館 埋蔵文化財調査部門
TEL: 082-424-6158 E-mail: hmatbunshiroshima-u.ac.jp
Twitter: @hmatbunshiroshima-u.ac.jp
2016年3月末～4月初 遺跡見学お花見ツアーを開催予定です。

写真 122 遺跡見学ツアーチラシ

「学内遺跡見学ツアー」を開催（広島大）
広島大学は、このほど広島キャンパスで、学内の遺跡を巡るツアーを開催した。東広島キャンパスでは、旧石見時代から近世まで全ての時代の遺跡が確認され、地域の歴史の移り変わりをとらえることができる。広島大は、遺跡を保護・保存し、調査成果を歴史文化教育のために活用している。遺跡の時期や特徴を解説した看板を設置し、参加者の理解を深め、遺跡の価値を伝える。保存に努めている。今回のツアーは、学生が学びの場、埋蔵文化財について知り、大学で働く教職員は大学の歴史をもっと身近に感じることとを目的に行われた。参加者は、約 1 時間かけて調査後に、その多くが現状保存されている遺跡、堅穴住居跡の復元された常設展示館を復元した鴻の巣南遺跡、土器や石製の出土品を保管する広島大総合博物館のサテライト館埋蔵文化財調査部門の展示室を見学した。

今回のツアーは、学生が学びの場、埋蔵文化財について知り、大学で働く教職員は大学の歴史をもっと身近に感じることとを目的に行われた。参加者は、約 1 時間かけて調査後に、その多くが現状保存されている遺跡、堅穴住居跡の復元された常設展示館を復元した鴻の巣南遺跡、土器や石製の出土品を保管する広島大総合博物館のサテライト館埋蔵文化財調査部門の展示室を見学した。

「この地で出土した遺跡を見たが、昔の人々の暮らしを知る良い機会になった。参加者からは、学内に遺跡があったことが、遺跡や文化財に興味を持つきっかけになった。鴻の巣南遺跡は、見学ツアーだけでなく、将来的に、学生や教職員が遺跡の保護に、より興味を持ち、文化財との関わりがより身近なものとなることを期待される。

遺跡の時期や特徴が書かれた案内板前で解説を受ける参加者ら

写真 123 文教速報 (H28. 1. 29 付)

と増やしてほしい」などの声が聞かれ、構内遺跡の保存活用に有益な意見が得られた。今後も同様なイベントを継続して実施していくことが必要だと思われる。



写真 124 遺跡見学ツアーの様子 1



写真 125 遺跡見学ツアーの様子 2

d. 文化財保護に関する講演会（実施日：2015 年 6 月 25 日、11 月 12 日）

文化財は日常の暮らしの中のととても身近なところにあり、キャンパスの中にも多くの遺跡が存在するのであるが、そのことを知る機会が少ない。文化財は貴重な国民的財産であり、それらを保護するための法律があることの周知も足りていないのが現状である。文化財の存在や保護の意義を知らないがために、無意識に文化財を壊してしまう可能性もある。このような失敗をしないためには、もっと学生や教職員をはじめとした地域住民に対して文化財についての周知や興味付けをする必要がある。特に文系・理系を問わず全学生への教育普及は、大学側の責務だとも言える。

この度、東広島市教育委員会から広島大学に対して、学生への文化財保護法の周知と指導依頼もあり、広島大学学生生活会議と総合博物館が主催して「文化財保護に関する講演会」を実施するに至った。第 1 回目として、文化庁文化財部文化財鑑査官の齊藤孝正氏を講師に招き、「世界に誇るわが国の文化財保護制度－文化財全般の保存・活用業務を学び未来へ伝える－」と題して文化財の保護と活用について講演いただいた。参加者は 230 名であった。また第 2 回目として、東広島市出土文化財管理センター所長の妹尾周三氏に「遺跡・史跡と埋蔵文化財－遺跡の保護と公開活用－」と題した講演をしていただいた。参加者は 160 名であった。



写真 126 第1回文化財保護講演会チラシ



写真 127 第2回文化財保護講演会チラシ



写真 128 第1回文化財保護講演会の様子1



写真 129 第1回文化財保護講演会の様子2



写真 130 第2回文化財保護講演会の様子1



写真 131 第2回文化財保護講演会の様子2

f. その他の依頼事業

日本生物学オリンピック（対応日：2015年8月22日）

日本生物学オリンピックは、高校生などを対象として生物学の面白さや楽しさを体験してもらう全国規模のコンテスト（国際生物学オリンピックの日本代表選考を兼ねる）で、2015年度は広島大学が会場となって実施された。施設見学の一環で、「広大エコミュージアムツアー」と題して鴻の巣南遺跡の復元住居跡の見学と発見の小径がコースとして設定され、鴻の巣南遺跡と山中池南遺跡第2地点の解説を行った。参加者は生物学に興味がある高校生ではあったが、当時の自然環境や遺跡の景観、科学分析で分かる昔の多様な暮らしやなど、生物学にも関わりそうなことと関連付けた説明を心がけた。

三ツ城小学校区オリエンテーリング大会（対応日：2015年11月28日）

三ツ城小学校区では、毎年自治協議会が主催するオリエンテーリングを開催している。昔から親しまれている場所を地域の人たちと一緒に訪ねて地域について学び、より一層の健康づくりを目指したウォーキングを目的としており、今年は「広大・下見再発見オリエンテーリング大会」と題して、広島大学キャンパスがコースの一部に選定された。総合博物館本館の展示見学と鴻の巣南遺跡、山中池南遺跡第2地点がコースに含まれ、遺跡2か所での解説を行った。地域の歴史を知ることは重要なことであり、身近な場所に多くの遺跡があることを知ってもらう良い機会であったと言える。



写真 132 鴻の巣南遺跡見学の様子



写真 133 山中池南遺跡第2地点見学の様子 1



写真 134 山中池南遺跡第2地点見学の様子2



写真 135 山中池南遺跡第2地点見学の様子3

郷田小学校からの見学（対応日：2015年12月2日）

郷田小学校は広島大学東広島キャンパスに一番近い小学校で、毎年六年生2クラスが社会見学で大学を訪れている。今年は、総合博物館本館と中央図書館サテライト館に加え、埋蔵文化財調査部門の展示室や遺跡保存区の見学も行われたため、展示解説や遺跡保存区での遺跡解説などの対応を行った。展示室では、キャンパスの遺跡や出土遺物について解説し、整理室においては実際の遺物の接合をしたり遺物の実測道具を使ってみるなど、整理作業の一部を体験してもらった。



写真 136 郷田小学校展示室見学の様子



写真 137 郷田小学校整理室見学の様子



写真 138 郷田小学校遺跡見学の様子



写真 139 郷田小学校中央図書館見学の様子

5) 新聞掲載・メディア放送

中国新聞 2015 年 7 月 28 日 「広島大から出土軍用食器を展示」(写真 84)

中国新聞 2016 年 1 月 22 日 「広島高師遺構「被爆前」語る」(写真 140)

TSS (テレビ新広島) みんなのテレビ 2016 年 1 月 23 日放送

「旧広島高師の遺構が出土 再開発中の広大本部跡地」

中国新聞 2016 年 1 月 26 日

「「やまなみ」建設で遺跡調査 広島県北 旧石器の年代推定進む」(写真 141)

文教速報 2016 年 1 月 29 日 「学内遺跡見学ツアー」を開催 (広島大)」(写真 123)

文教ニュース 2016 年 2 月 8 日 「広島大学「学内遺跡見学ツアー」を開催」(写真 142)

2014 年度分追補

徳島新聞 2015 年 2 月 20 日

「埋蔵文化財センター巡回展 続発掘へんろ 下 四国地方における近世城下町の動物資源利用」(写真 143)



写真 140 中国新聞 (2016 年 1 月 22 日付)



写真 141 中国新聞 (2016 年 1 月 26 日付)



写真 142 文教ニュース (2016 年 2 月 8 日)



写真 143 徳島新聞 (2015 年 2 月 20 日)

2. 2015（平成 27）年度の教育活動

1）学芸員資格取得特定プログラム

藤野次史 博物館概論
博物館経営論
博物館資料論
博物館実習 1
博物館実習 2

2）教養教育

藤野次史 東広島キャンパスの自然環境管理

3. 2015（平成 27）年度の個別研究活動

《藤野次史》

（研究発表）

石丸恵利子・大近美穂・西口祐子・藤野次史* 2015 年 6 月 25 日・26 日「広島大学構内遺跡の保存と活用」第 18 回大学博物館等協議会・第 10 回博物科学会 金沢大学自然科学本館 1 階 ファカルティホール：ポスター発表 *当日対応

藤野次史 2015 年 11 月 14 日・15 日「西日本における後期旧石器時代初頭の石器群」第 32 回中・四国旧石器文化談話会 広島大学東千田キャンパス：口頭発表

岡橋秀典・藤野次史・清水則雄 2015 年 12 月 1 日「広島大学総合博物館 10 年の成果と課題」設立 10 周年記念公開シンポジウム「明日の大学博物館と広島大学」広島大学ライブラリーホール：口頭発表

（その他）

資料調査：山形県上ミ野 A 遺跡出土旧石器時代石器群の調査 東北大学大学院文学研究科考古学研究室 2015 年 6 月 22 日

運営委員：庄原市博物館運営会議 庄原市比和文化会館 2015 年 6 月 29 日

調査指導：広島県地頭分溝渕遺跡の調査指導（依頼）福山市瀬戸町 2015 年 12 月 18 日

資料調査：長崎県平戸市入口遺跡出土旧石器時代石器群の調査 長崎県平戸市里田原歴史民俗資料館 2016 年 2 月 5 日・6 日

資料調査：熊本県熊本市沈目遺跡出土旧石器時代石器群の調査 熊本県熊本市塚原歴史民俗資料館 2016 年 2 月 26 日
運営委員：明治大学黒曜石研究センター運営会議 東京都明治大学グローバルフロント 2016 年 3 月 8 日 場所：
運営委員：広島県博物館協議会 福山市広島県歴史博物館 2016 年 3 月 16 日
資料調査：長崎県佐世保市福井洞窟遺跡出土旧石器時代石器群の調査 長崎県佐世保市教育委員会 2016 年 3 月 24 日・25 日

《石丸恵利子》

（著書・論文・資料報告）

石丸恵利子 2015 年 5 月「霞キャンパスで発見された「広大病院」食器の展示を行いました。」『HUM-HUM』Vol. 8 広島大学総合博物館 7 頁
石丸恵利子 2015 年 5 月「2014 年度の埋蔵文化財調査部門の立会・試掘調査」『HUM-HUM』Vol. 8 広島大学総合博物館 9 頁
石丸恵利子 2015 年 12 月「松江城下町遺跡（母衣町 43－2 外）出土の動物遺存体」『城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書 7 松江城下町遺跡第 3 ブロック（母衣町 43－2 外）』松江市文化財調査報告書第 171 集、島根県松江市教育委員会・公益財団法人松江市スポーツ振興財団 270～279 頁
石丸恵利子 2016 年 3 月「徳島城下町跡（徳島 1 丁目地点）の動物資源利用－出土骨類の考察－」『徳島城下町跡（徳島 1 丁目地点）発掘調査報告書』徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター 629～649 頁
石丸恵利子 2016 年 3 月「徳島城下町跡（徳島 1 丁目地点）における貝類資源の利用」『徳島城下町跡（徳島 1 丁目地点）発掘調査報告書』徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター 650～659 頁
石丸恵利子・米田穰・尾寄大真・大森貴之・伊藤茂・小林紘一 2016 年 3 月「徳島城下町跡出土骨類の年代測定と炭素・窒素同位体分析」『徳島城下町跡（徳島 1 丁目地点）発掘調査報告書』徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター 660～667 頁
石丸恵利子 2016 年 3 月「北浦松ノ木遺跡出土の動物遺存体」『北浦松ノ木遺跡発掘調

査報告書』島根県松江市教育委員会・公益財団法人松江市スポーツ振興財団
28～32 頁

石丸恵利子 2016 年 3 月「宮ノ浦遺跡 15 トレンチから出土した脊椎動物遺存体」『宮ノ浦遺跡Ⅱ－第 5 次発掘調査－』愛媛大学法文学部考古学研究室・愛媛県越智郡上島町教育委員会 121～128 頁

米田穰・覚張隆史・石丸恵利子 2016 年 3 月「炭素・窒素同位体分析と放射性炭素年代からみた東名遺跡における生業活動」『東名遺跡群総括報告書』佐賀市教育委員会 66～70 頁

石丸恵利子「近世宿場町四日市遺跡の貝類利用」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第 7 号 広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門 1～20 頁

（研究発表）

石丸恵利子 2015 年 6 月 14 日「動物考古学からみた農耕社会化－動物資源利用に変化はあったのか？－」近畿地方における初期農耕集落形成をめぐる考古学的研究の研究会 京都文化博物館別館：口頭発表

石丸恵利子・大近美穂・西口祐子・藤野次史* 2015 年 6 月 25 日・26 日「広島大学構内遺跡の保存と活用」第 18 回大学博物館等協議会・第 10 回博物科学会 金沢大学自然科学本館 1 階 ファカルティホール：ポスター発表 *当日対応

石丸恵利子 2015 年 9 月 11 日「遺跡の動物骨から読み解く環境・歴史・食文化」広島大学総合博物館ミュージアムカフェ 広島大学東広島キャンパス マーメード・カフェラ・プラス：口頭発表

（外部資金獲得）

科学研究費 基盤研究C「近世城下町の資源利用と文化・流通に関する動物考古学および同位体考古学的研究」：研究代表者

受託研究 「徳島城下町跡徳島町 1 丁目地点出土骨類の同位体分析」公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター：研究代表者

（その他）

資料調査：広島県三原市出土資料の調査 広島県三原市歴史民俗資料館 2015 年 4 月 23 日

資料調査：島根県松江城下町遺跡出土動物遺存体資料の調査 松江市スポーツ振興財
団 2015 年 4 月 30 日、5 月 1 日

調査指導：旧練兵場跡出土動物遺存体の鑑定（依頼） 香川県埋蔵文化財センター
2015 年 9 月 7 日

資料調査：徳島県徳島城下町遺跡出土動物遺存体資料の調査 公益財団法人徳島県埋
蔵文化財センター 2015 年 11 月 29 日、2016 年 2 月 2 日

調査指導：松江城下町遺跡（母衣町 43－2）・北浦松ノ木遺跡出土資料の鑑定（依頼）
松江市スポーツ振興財団加賀事務所 2015 年 10 月 21 日・22 日

調査指導：愛媛県宮ノ浦遺跡出土遺物の調査について（依頼）愛媛大学 2016 年 1
月 25 日・26 日

資料調査：千葉県野田市・流山市・我孫子市出土動物遺存体資料の調査 流山市教育
委員会・我孫子市教育委員会 2016 年 2 月 9・10 日